

## 令和4年度美馬中学校教育についてのアンケート結果について

美馬中学校

今年度、生徒と保護者の皆様を対象に実施した「美馬中学校教育についてのアンケート」の結果をまとめましたので、お知らせします。なお、アンケートの詳しい結果(データグラフ)につきましては、学校ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

### 【学校生活の充実】

生徒の「学校へ行くのが楽しい」、保護者の「学校は、子どもにとって楽しみなところである」の問いでは前・後期とも、80～90%の肯定的な回答があった。前・後期を比較すると、保護者の肯定的な回答が約6%増加している。しかし、生徒の後期で「そう思わない」の割合がやや増加していることについては、手立てを講ずる必要がある。長引く新型コロナウイルス感染症による活動の制限の影響も考えられるが、今後とも、確かな学力の定着に向けた授業改善、魅力ある学校行事や自己実現に向けたキャリア教育の充実等、中・長期的なビジョンを持って取り組む必要がある。

### 【確かな学力の育成】

「先生方は教え方にいろいろな工夫をされており、授業がわかりやすい」について、肯定的な回答が生徒は約95%、保護者は約87%であった。特に、後期は生徒の「そう思う」の割合が7.1%増えて51.7%となり、「わかる授業」の実践についての取組が進んでいる。また、「ICTの活用」についても生徒、保護者ともに役92.5%の肯定的な回答となった。特に、後期の回答がでは「そう思う」が増加しており、「一人一台端末」や電子黒板を取り入れた授業により、ICTを活用した授業が広がっているといえる。本校教員相互や、小中連携授業実践の授業公開を行う等、授業改善研修への取組の成果も少しずつ上がってきたようである。今後も教職員の授業力向上に継続的に取り組んでいきたい。

### 【豊かな心の育成】

生徒の「命の尊さや人権の大切さを学ぶ機会がよくある」は90%、保護者の「学校は道徳や人権教育を積極的に行っている」は約95%の肯定的回答があった。特別の教科道徳の時間だけでなく、毎月1回の朝道徳と、家庭に向けての道徳通信の発行により、家庭内でも話し合う機会としていただけたと考える。また、人権教育では教職員の現地フィールドワーク研修や、生徒の体験学習や全校生による人権集会に取り組む等、人権意識を高める機会を積極的に設けた。

一方、「生徒のあいさつやきまりを守る等の基本的生活習慣」については、生徒は約96%の肯定的な回答があるが、保護者は約87%と大きな開きがあり、今後とも、家庭と連携して取り組みを進めていく必要がある。

### 【健やかな体】

「健康や体力づくり」については、保護者の肯定的回答は前期87%から94%に上昇した。生徒の肯定的回答は約86%であるが、「そう思う」の割合は6%上昇している。部活動や体育の授業での体力づくりや、養護教諭や講師を招いての保健指導、委員会活動によるAEDに関する取組や食育等、学ぶ機会が多くあったこと、また情報発信を行ったことで、学校の取組への理解が得られたと考えている。引き続き、機会を捉えて健やかな体づくりを進めていきたい。

### 【進路指導・キャリア教育】

「学校では、進路や生き方について考える機会がある」の問いに対しては、前・後期とも生徒は約86%で、昨年度より6%増えている。保護者は約80%の肯定的回答で、前期よりは約4%伸びた。本年度もコロナ禍のため、職場体験学習を実施することは叶わなかったが、様々な外部講師のお話を聞く機会を設けている。3年間を見通した進路指導やキャリア教育の中・長期的な目標を定めて計画的に推進したい。

### 【安全教育】

生徒の「事件・事故、地震・火災が起こった時どうしたらよいか教えてもらっている」が約97%、保護者の「学校は、安全指導に努力している」は93%の肯定的回答があった。小中合同の避難訓練を複数回行ったことや、校外学習での防災教育等により、災害時の対応について、意識が高まったと考えられる。今後は、認定こども園や地域と連携した「合同防災訓練・引き渡し訓練」等を視野に入れ、計画して実現したい。生徒たちには「自助」とあわせて、近くにいる園児・児童や高齢者とともに助け合う「共助」の精神と行動力を育てていきたい。

### 【様々な教育活動】

「学校行事」に対しては、生徒・保護者ともに約90%の肯定的な回答であった。長引くコロナ禍において、感染防止対策を徹底した取組には、一定の理解と協力をいただいている。「部活動に積極的に参加している」の問いでは、多くの生徒が肯定的な回答をしており、部活動が学校生活に占める割合が大きいことがわかる。部活動は現在大きな変革の時期を迎えつつあるが、適正かつ充実した部活動運営に取り組んでいきたい。

生徒会や委員会活動への関わりについては、他の項目よりはやや低いが、昨年度より約5%増えている。生徒会本部役員の活躍はもちろんであるが、各委員会活動が活発に活動をしてきた成果であるといえる。

### 【生徒指導】

保護者は、「いじめや悩み事等によく対応してくれる」、「学校は保護者の意見、相談をきちんと聞いてくれる」はともに、後期が約95%に伸びており、一定の評価を得られたが、生徒は「悩みや心配なことを、相談することができる先生がいる」の問いに対して、約30%の否定的な回答がある。時間をかけて信頼関係を築くことで、後期で「そう思わ

ない」の割合が減少しているように、今後も中学生の発達段階を考えながら、生徒がより相談しやすい体制づくりを進めていく必要がある。

また、定期的な「生活に関するアンケート」を継続して実施し、学年団、生徒指導主事、管理職員で共有して組織的に対応し、職員会議でも全職員で共有を図っている。今後も、日常的な関わりを大切に、「生活に関するアンケート」や「教育相談」、「前進」等を通して、生徒理解に努め、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努めたい。また、スマートフォン等の情報端末の利活用については、保護者と連携して情報モラルを身に付け、安全な利活用を進めることが不可欠である。

### 【環境整備】

生徒・保護者ともに、昨年度同様に約93%以上の肯定的回答があった。生徒たちの日頃の清掃や、ボランティア部を中心とした花づくりや校内の掲示物の工夫等により、学校の環境美化に努めることができた。今後も小学校と連携して美しい学校環境を構築したい。

### 【地域・保護者との連携】

「ホームページ等の情報提供」では、保護者からは前・後期とも約93%以上の肯定的回答があった。また、「PTA活動等家庭と学校との協力関係ができている」では、後期は前期より8.6%向上して90%に近い肯定的回答が得られた。次年度は、小中学校が連携したコミュニティスクールの本格始動となるため、今後もホームページや「さくら連絡網」を積極的に活用して、情報発信や保護者との連携に努めていきたい。

### 【特別な配慮を必要とする生徒への取組】

生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、支援を必要とする生徒が将来的に自立し、社会参加を図ることができるよう、合理的配慮を心がけ、生徒たちへの個に応じた支援を行った。また、言語支援の必要な生徒や保護者への対応も学校として取り組みを進めてきた。来年度も、特別支援教育の充実に向けて、環境整備や支援体制をより一層整えるとともに、教職員への研修も積極的に行っていききたい。

### ～ 今後の取組について ～

今年度のアンケート結果を踏まえて改善を図り、一人一人の生徒たちの生きる力を育成するため、全教職員が、保護者の皆様や地域の皆様と、力を合わせてより充実した教育活動の実践に努めてまいりますので、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、昨今「教職員の超過勤務の増加に伴う諸問題」が大きな課題となっています。学校業務に適切に取り組むためにも、引き続き学校の業務改善や働き方改革の推進にご理解をいただき、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。